

完走目指し 全国が51412人

ツール・ド・のどきよう号砲

サイクルクリニク、調整手伝う

クリニクは県自転車代表の唐見実世子選手が企画し、5人が自転車のサドルやハンドルの調整ラックレース日本代表を手伝った。小嶋選手の小嶋敬二選手やアテと唐見さんは大会で参五輪ロードレース日加者を支援するサポ

ト隊として活躍する。小嶋選手らは出場者の質問にも答え、「こまめな水分補給や補食を忘れないでほしい」「とぼしすぎず、8割ぐらいのペースを心掛けることが大切です」と助言した。今大会には40都道府県から1412人がエントリーしている。会場には自転車を積んだ県外ナンバーの車が次々と到着し、受け付けを終えた出場者が愛車を組み立てて本番に備えた。同僚2人と初めて参加する会社員宮崎

修さん(38)「さいたま市」は「能登の風景を楽しみながら完走を目指したい」と意気込んだ。18日は午前8時から開会式が行われた後、同8時半に同競技場をスタートし、初日のゴールとなる輪島市マリントウンを目指す。財団法人JKAが特別協力する。

第22回「ツール・ド・のどき」能登半島一周サイバル・サイクル2010(同実行委、県体協、県自転車競技連盟、北國新聞社主催)の出走受け付けは17日、発着点となる内灘町の県立自転車競技場前で始まった。トップ選手らが安全な走り方などを助言するサイクルクリニクも開かれ、全国からエントリーした1412人が18日の号砲を心待ちにした。



小嶋選手(右から2人目)からサドルやハンドルの位置について助言を受ける参加者 内灘町の県立自転車競技場